「日々の理科」（第 4056 号） 2025,-9,16

「能登半島の今（５）」

お茶の水女子大学サイエンス＆エデュケーション研究所

田中　千尋　Chihiro Tanaka

私が能登を訪れるのは、今回が初めてではありません。学生時代や就職してからも、何度か訪れています。何度も旅行先に選んだのは、能登の自然の美しさ、多様な産業、人々の生活に大きな魅力を感じていたからでしょう。そういう記憶と、今回見た風景の比較は、そう簡単には合致しないものでした。

スケッチブックには輪島漁港の画も残っていました。当時は、細いクレヨンで下絵を描いていたこともわかります。この港も震災で隆起し、多くの船舶が傾き、座礁する被害が発生しています。

震災時の火災で、ほぼ全焼した「朝市通り」の一帯です。震災後の報道でも特に多くの報道があり、記憶に残っている方も多いでしょう。震災から１年半も経っているので、一部は再建されているだろうと期待していました。しかし現在までにまったく再建されることなく、広大な草原になっていました。

朝市通りの一角には、地震で倒壊したままの家屋も、そのままの状態で残っています。国も自治体も地元の方々も、最大限の努力をしていても、まだ完全な復興には至っていないと実感できました。

輪島市街までの道も復旧工事中の道が多かったですが、輪島から先（東側）の被害は、それまでとは比較になりませんでした。工事をしていない道路のほうが少ない印象でした。

復旧工事の大半は「崩落した法面（のりめん）の修復」です。しかし「修復」というレベルではとても対処できない箇所も多く、その場合は道の経路を変更する大規模な工事も行われていました。

このような斜面の崩落も随所で見られました。電柱も傾いたままになっています。最初はショックを受けましたが、何度も目にするうちにだんだん慣れてしまい、「今の能登のあたりまえの風景」なのだと思うようになってしまいました。

そんな状況の中でも、ほっとする風景もありました。「白米千枚田（しろよねせんまいだ）」という棚田です。「千枚田」というのは棚田の別名のことが多く誇張された表現なのが普通です。しかしこの千枚田は、震災前には本当に 1004 枚の棚田があったそうです。

震災で約 8 割の棚田が被害を受け、その後の豪雨での崩壊もあり、完全には復旧していません。しかしこの日も、多くの人々が復旧作業をしていました。

千枚田からは、沖にいくつかの島が見えます。これは舳倉島航路の脇にある「七ツ島」です。一番右の島が、七ツ島最大の「大島」です。

次に寄ったのが「名舟港（なふねこう）」です。このあたりの震災による隆起は 2m 程度ですが、それでも漁港への被害は甚大です。港の岸壁近くの底は陸化して、草も生えてしまっています。漁船は一隻も見当たりませんでした。

（グーグルマップ／2023 年 10 月）

震災前の名舟港は、静かでのどかな雰囲気です。絵にすれば「漁船の休日」という画題にするでしょう。